

【平成28年度全国学力・学習状況調査の結果】

「全国学力・学習状況調査」は、小中学生の学力や学習状況を把握するために文部科学省が実施する調査である。対象は、小学6年生と中学3年生の児童生徒で、毎年4月に行われる。平成28年度の内容は小学校が、国語と算数、中学校は、国語と数学で、主として「知識」に関する問題Aと主として「活用」に関する問題Bがある。また、生活習慣や学校環境に関する質問紙調査も同時に行われる。全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てている。

瑞穂市全体の傾向

学力・学習

小学校

- ・国語は、A，B共に国、県の平均を上回っている。
- ・算数は、A，B共にほぼ国や県の平均と同じであるが、わずかに下回っている。
- ・国語Bにおいては、昨年度から伸びが見られ、多くの学校で行われた「書く力」をつける取組や授業のまとめをキーワードを使って書く取組等指導改善の効果が見られた。

中学校

- ・国語、数学の両方で、A，B共に国・県の平均正答率を上回り、特にBは、大きく上回っている。

児童生徒質問紙より

小学校

- ・朝食を毎日食べている、毎日同じくらいに寝ている、同じくらいの時刻に起きている等、きちんとした生活習慣を送っている児童が多い。
- ・地域の行事やボランティアに参加している児童が多い。
- ・学校の先生は、自分のよいところを認めてくれていると感じている児童が多い。
- ・夢や目標をもっている児童が、国や県の平均と比べて少ない傾向がある。

中学校

- ・地域の行事やボランティアに参加している生徒が多い。
- ・学校で、友達に会うのは楽しいと感じている生徒が多い。
- ・学校の先生は、分かるまで教えてくれると感じている生徒が多い。
- ・自分によいところがあると感じている生徒が、国や県の平均と比べ少ない傾向がある。